



おうちで本を開いていますか？ その4

子どもと本をつなげよう おとなも本とつながろう

子どもたちに本を読んであげてほしいと思っています。
子どもと本がつながると、どんな良いことがあるのでしょうか。
色々な「ステキ」が始まるんですよ。

本の中に綴られた文章はその作家が選びに選んだ言葉の集まりです。作家の思いを伝えるためにもっとも良い形で組み合わせられた言葉の集合です。

『泣いた赤おに』という本があります。

赤おにが青おにの家を訪ねる場面が出てきます。青おにの住家の周りの様子です。



「やまゆりが、まっしろな花をさかせて、ぶんぶんとおっていました。松の木のふといえだから、ばらばらとつゆがこぼれて、ささの葉をぬらして…（文中より）」

声に出して読んでみてください。美しい風景が目の前にあらわれます。私たちはこんな言い方で景色の話をするでしょうか。日常生活ではなかなか難しいことです。



『うらしまたろう』には、こんな箇所があります。

「…家があったところには草がぼうぼうとおいしげり、家はあとかたもなく…（文中より）」
そんな所に呆然と立ちつくすたろうなのです。あまりにも時がたってしまったことを落胆する様子が伝わってきます。本とつながると普段使わない日本語に出会えます。美しい日本語です。なんてステキなことでしょう。

『つるによぼう』に出てくる娘は、「…やさしいよめさん…」で「つつましく、よく仕えてくれる」

娘と書かれてあります。「つつましく」がうまく説明できなくてもいい感じと受け取ることができます。



織物を仕上げるたびにやつれていく娘。やつれるという言葉のイメージが心に残ります。

そして最後にとびさってゆく小さな鶴。もう二度ともどることがないから「とびさってゆく」になるのですね。



『たなばた』では、もう少しでおり姫に会える牛飼の目の前で、「今まで浅かったあまのかわが、みるみるうちに、ごうごうとなみのさかまくあまのかわに」になってしまうのです。「なみのさかまく」という状況が、おり姫に会えない牛飼の悲しみと共に恐ろしい大変なことと感ずることができます。



5月15日岸上保育園で「絵本と子育て」についての講座がありました。参加した保護者の方から、「早速ゆっくり読み聞かせをしてみました」「最近あわただしく過ごしていたので、なんだか優しい気持ちになりました」などの声をいただきました。



※橋本市家庭教育支援チームでは、「家庭読書班」を構成しており、「家読」に関する講座を展開しています。お問い合わせは、教育委員会 家庭教育支援室まで（TEL 33-1111 内 1381）

お話の中には、初めて耳にする言葉が出てきます。子どもたちは、分からない言葉もその場面のひとつのものとして、全部まとめて受け取っていきます。その言葉のイメージができあがっていくのです。イメージは何度か耳にするうちに確かなものへとなっていきます。「こんなふうにする言葉なんだ」と経験を重ねることで、使いこなせる言葉になるのです。

言いたいことがあるのに言葉にならない…うまく伝えられない…よく聞くことです。使いこなせる言葉を増やし、自分の気持ちを表現できる子どもになってほしいのです。

どうですか？ 本とつながることはステキなことでしょうか？

文章を読んでイメージが広がると、書かれている内容が把握しやすくなります。大きくその場の雰囲気をつかみ取ることができるからです。読解力や想像力へと発展していきますよ。

子どもから見れば大人はいつも何やら忙しそうにしています。ねえねえと話しかけても上の空だったりします。でも本を読む時は違います。とっても近くにいてくれて、本のことだけの時間です。特別な時間、ステキな時間です。子どもたちの心が満たされます。

お風呂の後、ご飯の後、眠る前。ほんの少しの時間を、本と子どもと、そしてこれを読んでくださったあなたの時間にしてください。



ふもとの村の美しさや、訪れた村人と赤おにがなごやかに過ごす様子がステキな文章で綴られています。

題名/泣いた赤おに
作/ 浜田廣介
絵/ 梶山俊夫
出版/ 偕成社



初めて見るりゅうぐうの美しさ。すいよせられるように近づいていくたろうです。

題名/うらしまたろう
再話/時田史郎
画/ 秋野不矩
出版/福音館書店



まばゆいまでにまっしろな白妙の地は、かすかな紅のいろさえしのばせて、この世ならぬひかりにかがやいていました…まあ、なんという美しい織物でしょう。

題名/つるによぼう
再話/矢川澄子
画/ 赤羽末吉
出版/福音館書店



おりひめが子どもたちとなきなき別れ、天の使いにつれられて天にもどっていく…本人の意志ではないので「つれられて」と書き表されています。

題名/たなばた
再話/君島久子
画/ 初山 滋
出版/福音館書店



いっすんぼうしが三匹のおにを追い払う場面。あの小さな身体が目にも止まらぬ速さで動き回ります。がんばれ、いっすんぼうし！

題名/いっすんぼうし
作/ いしいちもこ
絵/ あきのふく
出版/福音館書店



おくやまから、おおおに こおに どもがわりわりとおりてきました…『わりわり』とやってくるんですよ。ものすごい数ですよ。

題名/こぶしいさま
再話/松居 直
画/ 赤羽末吉
出版/福音館書店

